

# 宮崎県感染症週報

宮崎県感染症情報センター：宮崎県健康増進課・宮崎県衛生環境研究所

## □ 宮崎県第32週の発生動向

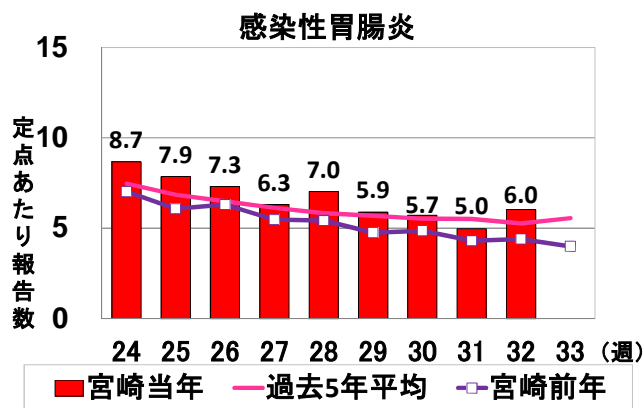
定点医療機関からの報告総数は572人（定点あたり20.2）で、前週比100%と横ばいであった。

### ★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

前週に比べ増加した主な疾患は感染性胃腸炎と手足口病で、減少した主な疾患はヘルパンギーナであった。

#### 【感染性胃腸炎】

・報告数は181人（6.0）で前週比121%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（5.3）の約1.1倍である。小林（17.0）保健所からの報告が多く、年齢別では1歳から4歳が全体の約6割を占めた。



#### 【手足口病】

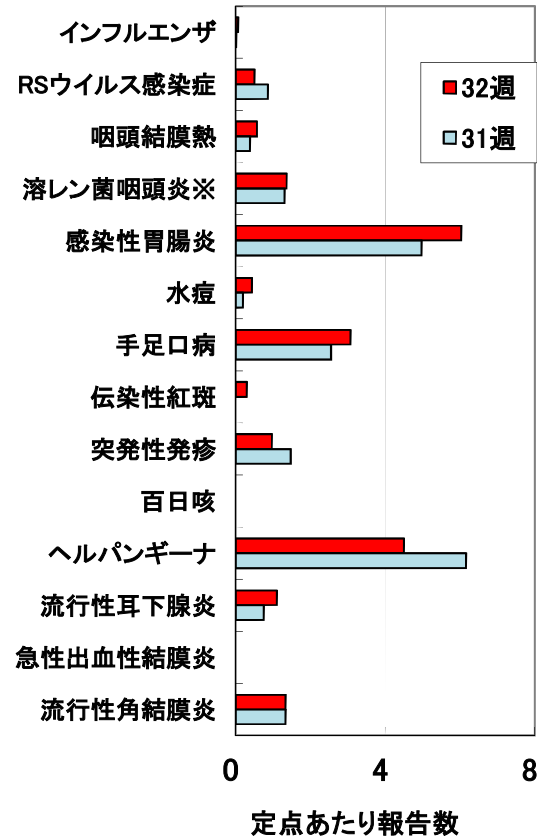
・報告数は92人（3.1）で前週比120%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（3.9）の約8割である。延岡（14.0）、日向（8.5）保健所からの報告が多く、年齢別では6ヶ月から4歳が全体の約9割を占めた。

#### 【ヘルパンギーナ】

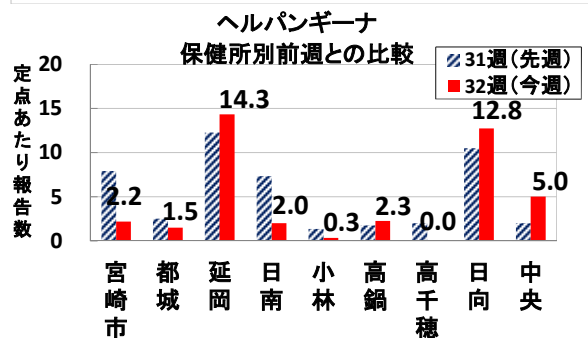
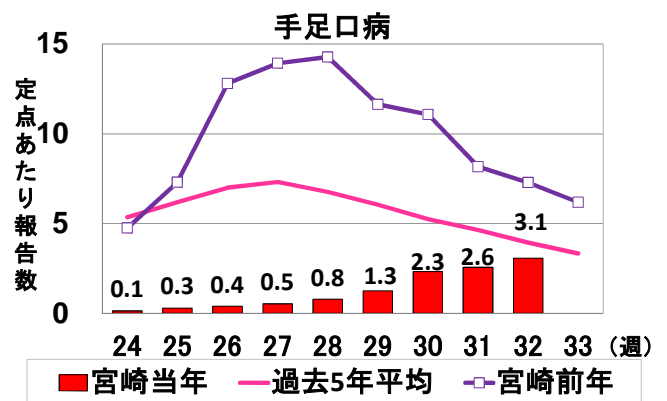
・報告数は135人（4.5）で前週比73%と減少したが、前週より増加している地域もあるので、しばらく注意が必要である。例年同時期の定点あたり報告数（3.7）の約1.2倍である。延岡（14.3）、日向（12.8）保健所からの報告が多く、年齢別では6ヶ月から3歳が全体の約8割を占めた。

★基幹定点からの報告★ 報告なし。

## 《前週との比較》



※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



(保健所)

## □ 流行警報レベル開始基準値超過疾患

保健所名	流行警報レベル開始基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	手足口病(14.0)、伝染性紅斑(2.0)、ヘルパンギーナ(14.3)
日南	咽頭結膜熱(3.0)
小林	なし
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	手足口病(8.5)、ヘルパンギーナ(12.8)
中央	なし

### \* 流行警報レベル開始基準値\*

- ・咽頭結膜熱(3.0)
- ・手足口病(5.0)
- ・伝染性紅斑(2.0)
- ・ヘルパンギーナ(6.0)

## ■ 全数把握対象疾患

1 類感染症 : 報告なし。

2 類感染症 : 結核 5 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	病型	症状
2類	結核	宮崎市	70 歳代	肺結核	なし
			80 歳代	肺結核	なし
			90 歳代	その他の結核(結核性胸膜炎)	なし
		都城	50 歳代	その他の結核(腸結核)	なし
		日向	20 歳代	無症状病原体保有者	—

3 類感染症 : 腸管出血性大腸菌感染症 16 例。

《宮崎市保健所》患者 3 例、無症状病原体保有者 3 例 主な症状は、水様性下痢、血便。

《都城保健所》患者 2 例、無症状病原体保有者 8 例 主な症状は、水様性下痢、血便。

### 腸管出血性大腸菌感染症の年齢別報告数(人)

1歳	2歳	4歳	20歳代	50歳代	60歳代
8	3	2	1	1	1

### 腸管出血性大腸菌感染症のO血清型及び毒素型別報告数(人)

	VT1	VT2	VT1、VT2	VT
O26	2			
O103	3			
O111			1	1
O157				1
O不明	1	1	6	

4 類感染症 : 報告なし。

5 類感染症 : 報告なし。

## ■ 病原体情報 (衛生環境研究所微生物部 平成 24 年 8 月 12 日までに検出)

### □ ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状	材料	検出日
ムンプスウイルス	9	男	6.5	ウイルス性髄膜炎(頸部硬直)、40℃、意識障害	髄液	8.6
コクサッキーB5ウイルス	23d	男	7.28	髄膜炎、39℃	便	8.1

○ ウイルス性髄膜炎を呈した小児の髄液からムンプスウイルスが検出された。本県では、2011年にもウイルス性髄膜炎、頸部硬直、唾液腺腫脹の症状を伴った小児からムンプスウイルスが検出された。

○ 髄膜炎疑いの乳児からコクサッキーB5ウイルスが検出された。例年、夏から秋にかけて髄膜炎が多く見られるが、その原因ウイルスとしてエコーウイルスやコクサッキーウイルスによるものが多く報告されている。他にエンテロウイルス属以外では、ムンプスウイルス、単純ヘルペスウイルスなどがあげられる。

□細菌

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
腸管出血性大腸菌 (O26:H11 VT1)	0~4	男	2012.7.17	水様性下痢	便	2012.8.3
<i>Salmonella</i> Corvallis (O8:z4,z23:-)	30代後半	女	2012.7.20		便	2012.7.25
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0~4	女	2012.7.21	百日咳疑、気管支炎	咽頭ぬぐい液	2012.8.1
腸管出血性大腸菌 (O26:H11 VT1)	0~4	男	2012.7.28	EHEC疑、発熱(37.3℃)、下痢	便	2012.8.1
毒素原性大腸菌 (O27:H7 STp O127a:HUT STp)	50代前半	女	2012.7.22	ETEC疑、下痢	便	2012.8.8
腸管出血性大腸菌 (O157:H7 VT2)	50代前半	男	2012.7.22	無症状	便	2012.8.1
<i>Salmonella</i> Stanley (O4:d:1,2)	0~4	女	2012.7.30	発熱(39.5℃)、下痢、血便、腹痛	便	2012.8.6
腸管出血性大腸菌 (O111:HUT VT1,2)	0~4	男	2012.8.4	下痢	便	2012.8.12
腸管出血性大腸菌 (O103:HUT VT1)	0~4	男	2012.8.4	発熱(36.1℃)、上気道炎、下痢、血便	便	2012.8.12
<i>Salmonella</i> Montevideo (O7:g,m,s:-)	0~4	女	2012.8.1	発熱(38.6℃)、下痢、嘔気、嘔吐、腹痛	便	2012.8.8
<i>Salmonella</i> Thompson(O7:k:1,5)	0~4	男	2012.8.2	発熱(38.0℃)、下痢、嘔気、嘔吐	便	2012.8.8
<i>Salmonella</i> Stanley (O4:d:1,2)	0~4	女	2012.8.1		便	2012.8.9
<i>Salmonella</i> Infantis(O7:r:1,5)	30代前半	女	2012.8.2		便	2012.8.9
毒素原性大腸菌 (O152:H10 STp)	50代前半	男	2012.8.7	ETEC疑、発熱(38.0℃)、下痢、嘔気、腹痛	便	2012.8.12

○ 7/14~8/7に検査依頼のあった14名から腸管出血性大腸菌 (EHEC) が5名、毒素原性大腸菌 (ETEC) が2名、サルモネラ属菌が6名、百日咳菌が1名、それぞれ分離された。分離されたEHECはいずれも国内で報告の多い血清型であった。ETECが分離された患者のうち一人から2つの血清型が検出され、毒素型は同じSTpであった。ETECの事例では、しばしば複数の血清型や毒素型が混在していることがあるため、複数のコロニーを調べることも重要になる。宮崎県では散発的ながら百日咳菌が分離・検出されていることから、引き続き、感染が広がらないよう注視していく必要がある。

■ 全国第31週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は13.3で、前週比89%と減少した。今週増加した主な疾患はRSウイルス感染症で、減少した主な疾患はヘルパンギーナとA群溶血性レンサ球菌咽頭炎であった。

RSウイルス感染症の報告数は808人(0.26)で、前週比137%と増加した。沖縄県(1.8)、鹿児島県(1.7)、福岡県(1.0)からの報告が多く、年齢別では2歳以下が全体の約9割を占めた。

ヘルパンギーナの報告数は10,913人(3.5)で、前週比80%と減少した。新潟県(7.8)、長野県(6.9)、富山県(6.6)からの報告が多く、年齢別では1歳から4歳が全体の約7割を占めた。

□ 全数把握対象疾患 (全国第31週)

1類感染症	報告なし				
2類感染症	結核	351例			
3類感染症	細菌性赤痢	8例	腸管出血性大腸菌感染症	130例	パラチフス 1例
4類感染症	E型肝炎	2例	A型肝炎	1例	つつが虫病 1例
	デング熱	5例	日本紅斑熱	3例	マラリア 1例
	レジオネラ症	13例			
5類感染症	アメーバ赤痢	14例	ウイルス性肝炎	2例	急性脳炎 3例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2例	後天性免疫不全症候群	12例	ジアルジア症 1例
	梅毒	13例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2例	風しん 82例
	麻しん	9例			

## ■月報告対象疾患の発生動向 <7月>

### □性感染症

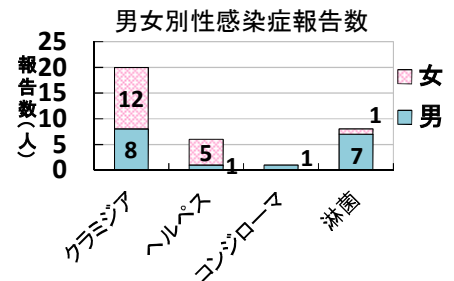
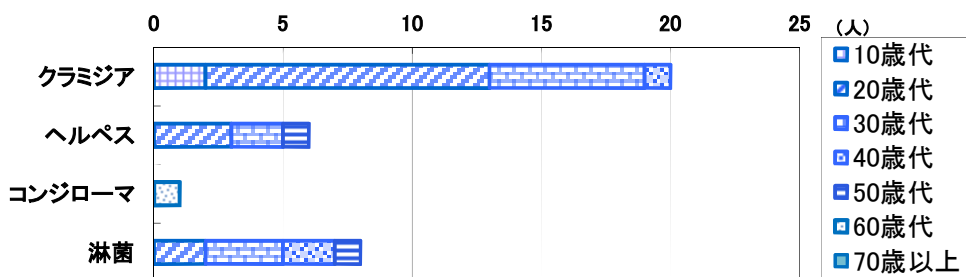
【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は35人（2.7）で、前月比85%と減少した。また、昨年7月（3.9）の約7割であった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数20人（1.5）で、前月の約9割、前年の約6割であった。都城（2.5）、宮崎市（2.3）保健所からの報告が多く、20歳代が全体の約6割、30歳代が約3割を占めた。
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数6人（0.46）で、前月の約7割、前年の約1.2倍であった。20歳代が全体の約半数を占めた。
- 尖圭コンジローマ：報告数1人（0.08）で、前月の約3割、前年の半数であった。60歳代の報告であった。
- 淋菌感染症：報告数8人（0.62）で、前月の約1.3倍、前年の約7割であった。30歳代が全体の約4割を占めた。

年齢別性感染症報告数(7月)



【全国】 定点医療機関総数：969

定点医療機関からの報告総数は4,241人（4.4）で、前月比104%と横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,249人（2.3）で前月比104%、性器ヘルペスウイルス感染症726人（0.75）で前月比97%、尖圭コンジローマ441人（0.46）で前月比98%、淋菌感染症825人（0.85）で前月比116%であった。

### □薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は20人（2.9）で前月比80%と減少した。また、昨年7月（6.6）の約4割であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数17人（2.4）で、前月の約9割、前年の約4割であった。70歳以上が全体の約半数を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数2人（0.29）で、前月の約7割、前年の約4割であった。70歳以上の報告であった。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告数1人（0.14）で前月の半数、前年と同数であった。70歳以上の報告であった。
- 薬剤耐性アシネトバクター感染症：報告はなかった。

【全国】 定点医療機関総数：466

定点医療機関からの報告総数は2,068人（4.4）で、前月比103%と横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,790人（3.8）で前月比107%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症249人（0.53）で前月比80%、薬剤耐性緑膿菌感染症29人（0.06）で前月比120%、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はなかった。

宮崎県 感染症情報

(56定点医療機関)

2012年 第32週(08月06日～08月12日)

疾病名		第31週	第32週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	1	3	1				2				
	定点あたり	0.02	0.07	0.11	0.00	0.00	0.00	0.40	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	31	15	2	1	6			2		4	
	定点あたり	0.86	0.50	0.33	0.17	2.00	0.00	0.00	0.50	0.00	1.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	14	17			2	6		4		5	
	定点あたり	0.39	0.57	0.00	0.00	0.67	3.00	0.00	1.00	0.00	1.25	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	47	41	6	1	20	3	1	4	1	3	2
	定点あたり	1.31	1.37	1.00	0.17	6.67	1.50	0.33	1.00	1.00	0.75	2.00
感染性胃腸炎	報告数	179	181	15	27	14	15	51	18	3	35	3
	定点あたり	4.97	6.03	2.50	4.50	4.67	7.50	17.00	4.50	3.00	8.75	3.00
水痘	報告数	7	13	4		2	1	4		1	1	
	定点あたり	0.19	0.43	0.67	0.00	0.67	0.50	1.33	0.00	1.00	0.25	0.00
手足口病	報告数	92	92		15	42		1			34	
	定点あたり	2.56	3.07	0.00	2.50	14.00	0.00	0.33	0.00	0.00	8.50	0.00
伝染性紅斑	報告数		9		2	6	1					
	定点あたり	0.00	0.30	0.00	0.33	2.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	53	29	7	5	6		4	3		4	
	定点あたり	1.47	0.97	1.17	0.83	2.00	0.00	1.33	0.75	0.00	1.00	0.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	222	135	13	9	43	4	1	9		51	5
	定点あたり	6.17	4.50	2.17	1.50	14.33	2.00	0.33	2.25	0.00	12.75	5.00
流行性耳下腺炎	報告数	27	33	1	17	5	1		3		3	3
	定点あたり	0.75	1.10	0.17	2.83	1.67	0.50	0.00	0.75	0.00	0.75	3.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00							
流行性角結膜炎	報告数	8	4	4								
	定点あたり	1.33	1.33	4.00	0.00							
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数	2										
	定点あたり	0.29	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:46、小児科定点:30(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:3、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2012年第1週～32週)

2類感染症	結核	148例(5)			
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	34例(16)			
4類感染症	A型肝炎	2例	つつが虫病	13例	デング熱
	日本紅斑熱	5例	レジオネラ症	4例	
5類感染症	アメーバ赤痢	1例	ウイルス性肝炎	2例	急性脳炎
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2例	後天性免疫不全症候群	2例	梅毒
	破傷風	1例			

( )内は今週届出分、再掲